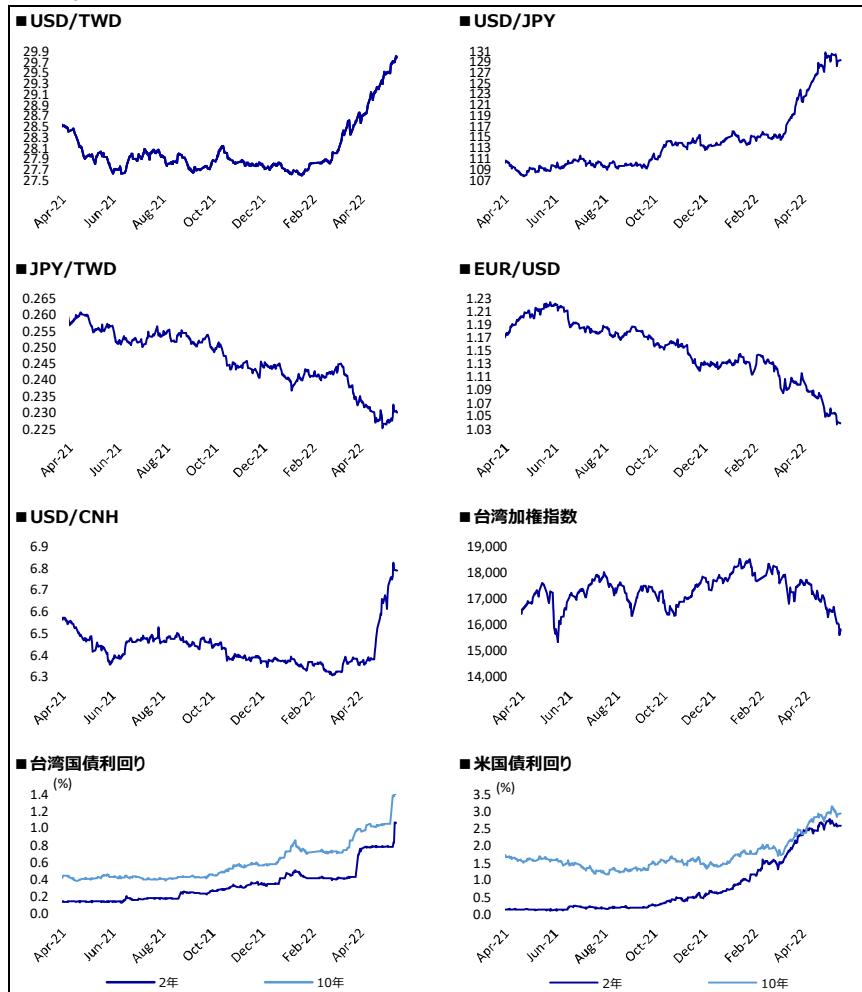


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初5/9は29.700でオープン後、米金利が上昇し台湾株が下落する中、台湾ドル売りが優勢な状況が続いており、29.76付近まで上昇。5/10は台湾加権指数が16,000ポイント台を割り込むと台湾ドル売りが加速し、約2年ぶりに29.8台にのせた。しかし、翌日に米CPIの発表を控え、投資家のポジション調整もあり、台湾株の下げ幅が縮小する中、ドル台湾ドルは一時29.680まで下落した。5/11は米CPIの発表を控え投資家の様子見ムードが強まり、29.70付近のレンジで推移。5/12はリスクオフの流れから株が下落する中、台湾ドル売りが優勢となり、輸入企業等のドル買いも加わり、一時29.854まで上昇。上昇が一服すると29.82付近まで戻した。5/13は台湾株が堅調に推移すると29.8台を割り込んだが、外国人投資家の資金流入は少なく、29.8台に戻し、最終的に先週比0.5%ドル高台湾ドル安の29.807で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は450.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初5/9は130.59でオープン後、特段材料がないものの米金利が上昇し、米10年債の利回りが3.2%を超えるなどドル円も一時131.35まで上昇し約20年ぶりの高値を更新。しかし、高水準の米金利や景気の先行き不透明感から株が売られると、安全資産とされる米国債が買われ米金利はじりじりと低下し、ドル円も130円台前半まで下落。5/10は米金利低下を受け129円台後半まで下落したが、複数のFRB関係者による次回会合以降の利上げについての発言が材料視され130円台半ばまで戻した。5/11はCPIの発表を控え、130円台半ばで小動きであったが、発表を前にドルが売られると130円台を割り込んだ。米CPIは前月比0.3%、コアは前月比0.6%といずれも予想を上回り、米金利の急上昇と共にドル円は130円台後半まで上昇。しかし、景気後退への懸念が高まり米国債が買われ、米金利が一転して急低下するとドル円は129円台半ばまで押し戻された。5/12もリスクオフの流れから128円台半ばまで下落したが、その後の米4月PPIが前月比では予想と一致し、前年比では予想を上回ったものの、コアが前月比、前年比ともに予想を下回ったことを受けて、ドル売りに反応。128円も割り込み一時127.54まで下落したが、一巡後は128円台に戻した。5/13はリスクオフムードが一旦和らぎ、米金利の上昇もあり129円台に戻した。最終的に先週比1.0%ドル安円高の129.21で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.650-29.900
リスクオフの流れから先週は株安台湾ドル安の流れが強まったが、今週については、リスクオフの流れから米金利の上昇も落ち着いており、台湾株が反発すれば、上値は重い展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：127.50-132.00
米国の物価上昇にピークアウトの兆候が見られることや、景気後退懸念から米長期金利の上昇が一旦落ち着いている。今週は米経済指標が複数発表を控えており、景気動向を確認しながら、長期金利の動向につられた動きとなるであろう。

今週の予定

5/16 (MON)	米5月ニューヨーク連銀製造業景気指数
5/17 (TUE)	米4月小売売上高、米4月鉱工業生産
5/18 (WED)	日Q1GDP、米4月住宅着工・許可件数
5/19 (THU)	日4月貿易収支、米5月フィラデルフィア連銀景況指数、米4月中古住宅販売件数
5/20 (FRI)	日4月CPI、台湾4月輸出受注、台湾Q1経常収支

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。